

令和6年度 こども家庭庁 母子保健指導者育成研修
研修5 性と健康の相談（プレコンセプションケア）に関する研修

子どもの未来デザイン事業について

島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 金築

目次

1. 子どもの未来デザイン事業
2. こっころバーズデー講座
3. 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）
4. ライフプラン設計講座

1 . 子どもの未来デザイン事業 事業概要

目的

生命の尊さや家庭の意義、妊娠や出産に関する医学的知識、健康、ワークライフバランスなどに対する理解を深め、自らの将来について考える機会を提供する。

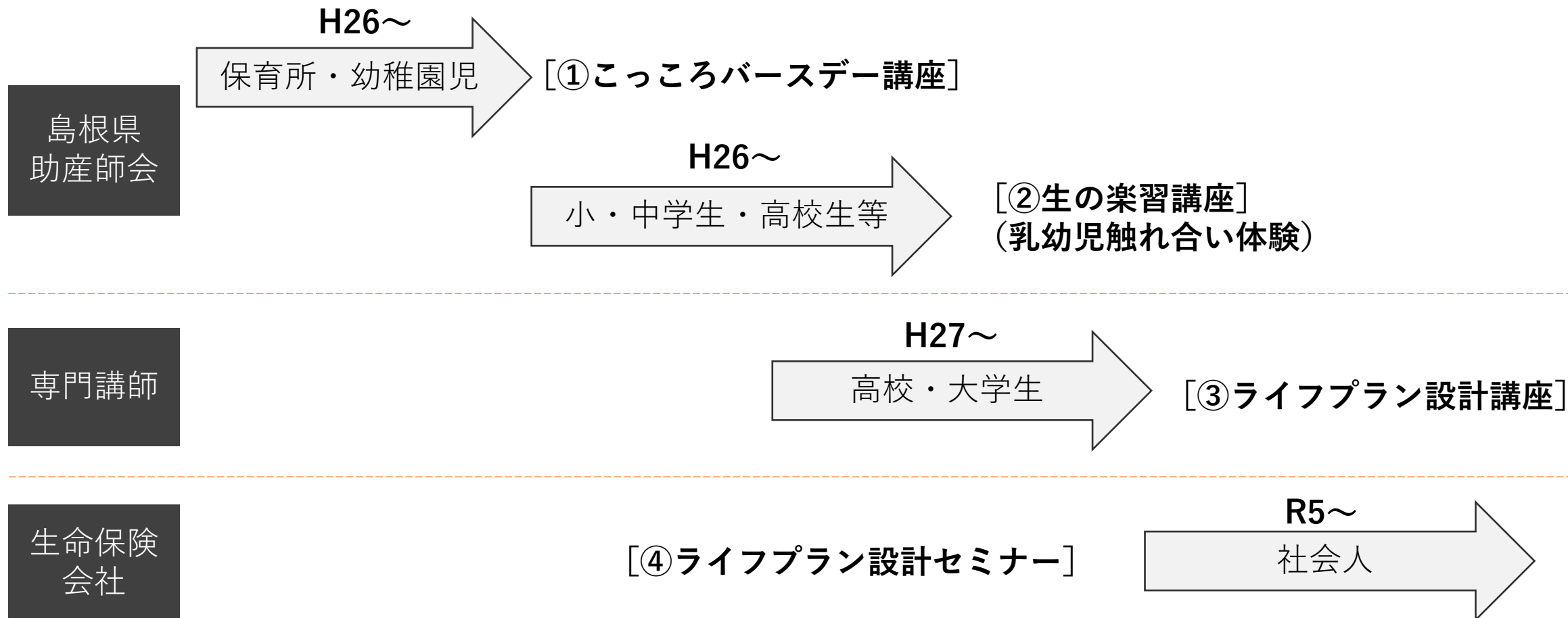
対象

幼児、小学生、中学生、高校生、専門学校生、大学生、社会人

取組

- ・こっころバースデー講座 (島根県助産師会へ委託 R5 1,064千円)
- ・生の楽習講座 (島根県助産師会へ委託 R5 7,039千円)
- ・ライフプラン設計講座 (専門講師へ依頼 謝金支払い)
- ・ライフプラン設計セミナー (生命保険会社へ委託 委託事業の一部)

1. 子どもの未来デザイン事業 事業概要



1 . 子どもの未来デザイン事業 各取組の概要

●こっころバースデープロジェクト、生の楽習講座

島根県助産師会が平成14年から行っている『バースデープロジェクト』を県の事業として実施。

『バースデープロジェクト』は、県内の幼児、児童・生徒、学生、保護者等を対象に、助産師による「命の尊さ」「妊娠・出産の感動・素晴らしさ」「親子の絆」等に関する出前講座。

講座種類

修学前編、小学校編、思春期基本編などライフステージに合わせた内容を用意

助産師人数
約55名

対象エリア
島根全域

実施件数
年間約250件

2カ月に1度定例会を開き講座内容を
適宜改善しながら実施。

●ライフプラン設計講座

結婚・子育てを希望するタイミングで計画できるように、妊娠や出産に関する医学的知識やワークライフバランスも含めた自らの人生設計を考える「ライフデザイン講座」を提供している。

大学生：相模女子大学大学院 特任教授（白河桃子氏）による講義

高校生、専修学校学生：白河桃子氏のファシリテーター育成講義を修了した女性実業家（令和6年度4月時点4名）による講義

●ライフプラン設計セミナー（社会人向け）

島根県が行う「結婚支援コンシェルジュ事業」の一環として受託者（生命保険会社）が実施

1. 子どもの未来デザイン事業 県事業の位置づけ

○島根創生計画の「第1章 人口減少に打ち勝つための総合戦略」に位置づけ

・若い世代に向けた啓発活動の充実

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根*創生
SHIMANE SOUSEI

第1編 人口減少に打ち勝つための総合戦略

I 活力ある産業をつくる

島根の経済を支えている第1次、第2次、第3次産業の活力を高め、所得を引き上げ、若者の雇用を増やします。

- 1 魅力ある農林水産業づくり
- 2 力強い地域産業づくり
- 3 人材の確保・育成



II 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若い人達が安心して島根で暮らし続けて、子どもを1人、2人、3人と産み育てたいと思うことができ、その希望をかなえるための子育て支援の充実や、働きやすい環境の整備をします。

- 1 結婚・出産・子育てへの支援



III 地域を守り、のびす

人口減少がいち早く進んできた中山間地域・離島と人口が集積した都市部が、共存・連携して共に発展する地域づくりを進めるとともに、それを支える社会基盤を整備します。

- 1 中山間地域・離島の暮らしの確保
- 2 地域の強みを活かした圏域の発展
- 3 地域の経済的自立の促進
- 4 地域振興を支えるインフラの整備



IV 島根を創る人をふやす

自分たちの生まれ育った地域の価値について子どもの頃から学ぶ活動やUターン・Iターン支援により、島根に愛着と誇りを持ち、将来の島根を支える人をふやします。

- 1 島根を愛する人づくり
- 2 新しい人の流れづくり
- 3 女性活躍の推進

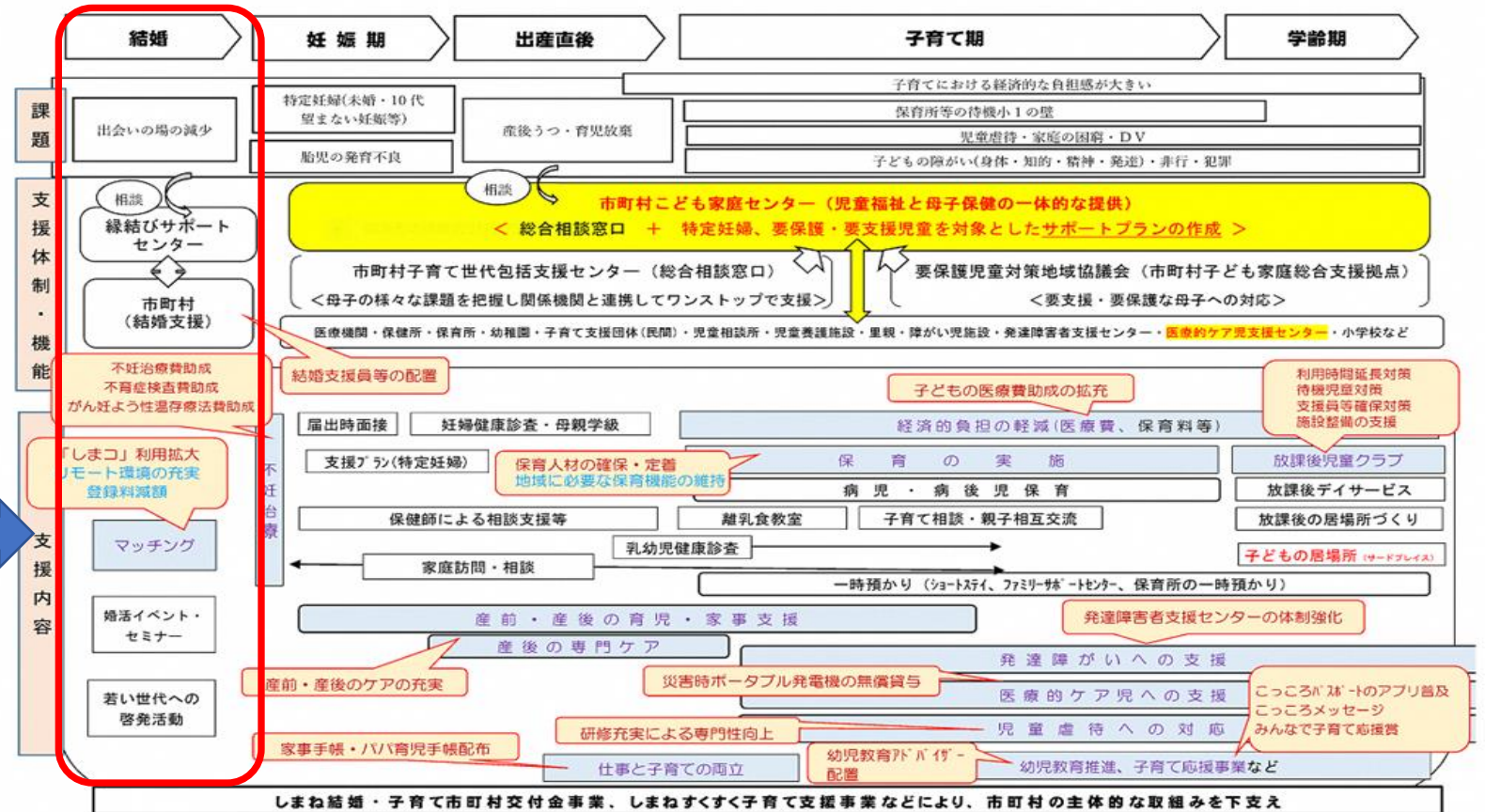


1. 子どもの未来デザイン事業 県事業の位置づけ

- 若い世代に向けた啓発活動 (世代に応じたライフデザイン)
 - ・ 保育所 (園)
 - ・ 小学生・中学生
 - ・ 高校生等
 - ・ 大学生
 - ・ 社会人

しまね子育てトータル支援プランの事業展開 (R4.11以降)

～ 県内どこでも、結婚・妊娠期・出産期・子育て期のサービスを切れ目なく展開 ～



2. こっころバースデー講座

[目的] 幼い子どもを持つ保護者が、もう一人子どもがほしいと思える機会や、子どもが命の尊さを実感し、良い親子関係を応援する機会の創出、保護者への悩み相談の場を提供する

[実施者] 島根県助産師会（平成26年度～）

[対象] 講座を希望する県内の保育所、幼稚園等の園児及び保護者（保護者参観に合わせて実施）

[実施方法] 同地域のバースデープロジェクトを担当する助産師2～3名による出前講座

[各機関の役割] ・県助産師会は講座の企画・運営・実施等全般を担当
・県子ども・子育て支援課は講座の募集、採択・不採択の通知

[実績] 令和3年度 10講座、令和4年度 25講座、令和5年度 30講座

[予算] 1,064千円（令和5年度）

- ・助産師派遣費用、講座に係る経費、助産師のスキルアップ研修費用等を含む事業全体の予算
- ・全額子ども・子育て支援課の予算

2. こっころバースデー講座

- [内容] ・ 時間 40～90分（前半：講座、後半：保護者との座談会）
・ 講座内容
お誕生日の話（歌もあり）、命の始まりの話（助産師による紙芝居）、心音を聞く、プライベートゾーンの話、出産シーン演劇、新生児人形（3kg）の抱っこ、保護者との座談会 など
- [ねらい] ・ 神秘的な“いのち”と、命の誕生までを知る
・ これからの命を見つめる
・ 自分の身体を守る
・ 保護者さんへ子どもが産まれたときの感動を思い出してもらう
- [工夫] ・ 多くの保育・幼稚園児に講座を提供することを目的に、未実施の保育所・幼稚園を優先して調整をしている。（昨年度は30講座の枠数に60件の応募あり）
・ 保護者との座談会を設けることで、保護者に対して相談や保護者間の交流の機会を提供している
・ 紙ベースによる受付事務が煩雑であったため、R6以降は電子申請を活用
- [各関係機関との連携のポイント]
- ・ 県助産師会とは、年度末に年度の実施報告、翌年度の計画について協議する場を設けている。また、定期的な協議を通じて、継続的な連携体制を構築している。
 - ・ 講座を積極的に見学に行くことで、事業への理解を深めるとともに、県助産師会と気軽に話せる関係性構築を心掛けている

2. こっころバースデー講座

[参加した保護者・保育士等の声] (R5実施分)

- ・子どもの「赤ちゃんはどうやって産まれてくるの？」に上手に伝えきれないことを、いのちの始まり、誕生という、子どもたちの年齢に合わせた言葉でお話。子どもたちも「すごい！」「びっくり！」「お母さんに聞いてみよう！」と、しっかり伝わっていることを実感。
- ・一人ひとりが大切にされていること、自己肯定感が育まれる。
- ・赤ちゃん人形を抱いて「うれしい気持ち！」(子どもの感想)
- ・子どもが産まれてきた時の喜びと大変さ、我が子の愛おしさを感じた。子どもとの時間をもっと大切にしたい。
- ・プライベートゾーン(性教育)の話聞いて、自分も友達も大切にしていけるようになってほしい。

2. こっころバースデー講座

[課題]

- ①子どものうちから、命や性に関心を持つことで、妊娠前からの健康管理（プレコンセプションケア）の実践に繋がると良い。
- ②講座は幼児を対象とした内容のため、保護者へもプレコンセプションケアを意識していただき、もう一人産み育てたいと思ったときのための健康な身体づくりに寄与できると良い。
- ③講座募集(3/下旬)～受付(5/月上旬)～参加校決定(5/下旬)
 - ・希望される施設数に対して実施数が少ない（助産師会のマンパワー）
- ④講座内容
 - ・紙芝居の絵（赤ちゃん生まれる仕組み）が踏み込みすぎという意見もあり。

3. 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

[目的] 次世代を担う児童や生徒に、生命の尊さや家庭の意義などの理解をさらに深めてもらう

[実施者] 島根県助産師会（平成26年度～）

[対象] 講座を希望する県内の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校および特別支援学校の児童、生徒及び保護者、地域の方々

[実施方法] 同地域のバースデープロジェクトを担当する助産師2～3名による出前講座
対象の学年や、保護者参加の有無、保護者参観日に実施するのかなどは各校の方針による

[各機関の役割] ・ 県助産師会は講座の企画・運営・実施等全般を担当
・ 県子ども・子育て支援課は講座の募集、採択・不採択の通知
※教育委員会による講座内容・講座実施への関与はない

[実績] 令和3年度 150校、参加人数6,782人（保護者等含む）
令和4年度 160校、参加人数7,770人（保護者等含む）
令和5年度 160校



3. 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

[予算] 7,039千円（令和5年度）

- ・助産師派遣費用、講座に係る経費、助産師のスキルアップ研修費用を含む事業全体の予算
- ・事業費の1/2は国の「地域少子化対策重点推進交付金」による補助、1/2を県が負担

[内容] ・時間 40～90分

- ・講座内容
小学生

お誕生日の話、助産師による紙芝居（赤ちゃんがどうやって産まれてくるか）、演劇（出産シーン）、心臓の音、新生児人形（3kg）の抱っこ など

中学生・高校生

誕生日の話、助産師による妊娠・出産等の話、心臓の音、新生児人形（3kg）の抱っこ、妊婦体験、乳幼児触れ合い体験 など

⇒中学生、高校生と世代が上がるにつれ、性、妊娠・出産の内容が具体的になっていく。高校では、出産適齢期、プレコンセプションケア、人工中絶、性感染症、HPV予防ワクチン、避妊、緊急避妊法なども説明あり。

[ねらい] ・神秘的な“いのち”と、命の誕生までを知る

- ・自分たちが生まれてきたことを知る
- ・これからの命を見つめる
- ・自分の身体を守る
- ・性と妊娠・出産などの正しい知識の習得 など



3. 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

- [工夫]
- ・学年に応じたカリキュラムに基づき講座を実施しているが、学校により使用する言葉や表現等の教育方針が異なるため、講座を実施する助産師が事前に選択校と詳細な授業内容に関する打合せを実施している
 - ・学校に県助産師会、子ども・子育て支援課それぞれに対して受講者のアンケート結果の共有を依頼している。子ども・子育て支援課では、受講人数、命のすばらしさを認識した児童・生徒数及び担当教諭からの意見をタイムリーに把握している。
 - ・年度末に県助産師会からの年度の実施報告と来年度の計画報告を受けるとともに、助産師会の要望を確認し、次年度の活動に反映している。
 - ・紙ベースによる受付事務が煩雑であったため、R6以降は電子申請を活用

[各機関との連携のポイント]

- ・委託先である県助産師会とは、年度末に年度の実施報告、翌年度の計画の報告等を兼ねた講座について協議する場を設けている。また、定期的な協議を通じて、継続的な連携体制を構築している。
- ・講座を積極的に見学に行くことで、事業への理解を深めるとともに、県助産師会と気軽に話せる関係性構築を心掛けている

3 . 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

[小学生の感想]（R5実施分）

- ・ 助産師さんが分かりやすく教えてくれて赤ちゃんがどうやって生まれてくるのか分かった。自分の命を大切にしようと思う。
- ・ 命の誕生にはいろいろな人の思いが関わっているのだと思いました。
- ・ これからは妊婦さんを見かけたら手伝ってあげたいです。
- ・ お母さんがこんなに頑張って私を産んでくれたということが分かった。

[教員の感想]

- ・ 担任が授業するよりも、はるかに子どもたちの学びや気づきになる。
- ・ 実際の赤ちゃんに触れたり、友達の心音を聞いたり、目を輝かせながら命の重みを体感できた。
- ・ 幼稚園の時にも、この話を聞いたと話す児童がいた。年齢に合わせて繰り返し学ぶことが大切。
- ・ インターネット社会で情報が氾濫している中、正しい情報や家族の思いを伝えることは重要。
- ・ 講座（保護者参観）後、多くの家庭で産まれてきた時の写真やビデオを親子で見たり、幼い頃のエピソードを語り合ったと聞いた。



3 . 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

[中学生の感想]（R5実施分）

- ・ 実際に赤ちゃんに触れ合い、赤ちゃんの表情やしぐさなどを見ることで、命の尊さや周りの人たちに支えられていることを実感した。
- ・ 自分の存在が家族にとって大切なものであることが分かった。
- ・ 周りの人に感謝したい、親にありがとうと伝えたい。
- ・ 命の尊さ、家族への感謝、妊婦への気遣いの必要性を感じた。
- ・ 思春期の不安や悩みを感じているのは自分だけではないことが分かり安心した。



[教員の感想]

- ・ 妊娠から出産までを「母親の気持ち」として話されたので、初めて聞く「親の気持ち」が印象に残った生徒が多かった。
- ・ 実際の可愛い赤ちゃんに触れることで、生徒は幸せそうで、自分たちが愛され、育てられてきたことを実感したり、子どもを育てることに良い印象を持った生徒も多かったのではないかと。
- ・ 男女ともにお互いを尊重し合うことの大切さを学ぶ貴重な時間だった。
- ・ 保健体育の授業とこの講座（助産師の立場からの正しい知識習得）をつなげた性教育の授業展開を考えていく。

3 . 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

[高校生の感想]（R5実施分）

- ・ 自分は男なので出産はどこか他人事だったが、妊婦体験や出産・避妊について詳しく知れたことが印象に残った。パートナーができたなら配慮ある行動がしたい。
- ・ 出産や妊娠の時は男性の協力が必要だと感じた。
- ・ 大事に育てられてきたんだなと実感できた。
- ・ 中学生の時も同じ授業を受けたが、知識の薄かった中学のときよりもいろんなことを理解し、お互いに思ったことを言える関係性を作っていくことが大切だと学んだ。
- ・ 男性・女性の身体の違いが分かった。妊婦さんを見かけたら席を譲ろうと思う。
- ・ SNSやニュースより正しい知識を分かりやすく教えてもらった。
- ・ 生理で不安になることが多いので、助産師さんに電話するのもいいかな。
- ・ 妊婦体験で赤ちゃんの重さや苦労が体験できた。



[教員の感想]

- ・ 「死ね」が口癖の生徒がいたが、使う回数が減った。
- ・ 性感染症や人工妊娠中絶について、生徒も身近な問題として捉えることができた。
- ・ 赤ちゃんパワーは偉大です！

3 . 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

[あかちゃんボランティアの受付、管理、関係機関との調整]

- ①あかちゃんボランティア受付サイトに講座情報を掲載
- ②保護者が希望する講座に参加申込（年3回まで）
- ③NPO法人で受付、確認、決定
- ④担当助産師に連絡

●NPO法人に委託

- ・あかちゃんボランティアの登録受付・情報管理
- ・あかちゃんボランティアへの講座参加に関しての連絡
- ・助産師へのあかちゃんボランティアの情報伝達
- ・あかちゃんボランティアに係る保険加入に関する業務
- ・講座開催情報の管理
- ・助産師情報の管理

生の楽習講座 ～ようこそ あかちゃん！～

あかちゃんボランティア随時募集!!

「生の楽習講座」の～ようこそ あかちゃん！～にボランティア参加していただける親子を募集します。
島根県では、次世代を担う子どもたちを対象に、生命の尊さや家庭の意義などについて理解を深めてもらうことを目的として、幅広い年齢の子どもたちに向けて、生命誕生の現場に携わる助産師による「生の楽習講座」を島根県助産師会に委託して実施しています。乳幼児との関わり方の少ない子どもたちにとって、あかちゃんを身近に感じる体験は、自分たちが大切に育てられてきたことや命の大切さに気づいたり、小さな子を思いやる優しい気持ちを醸成する貴重な機会となります。

募集対象 乳児(首が座る頃～講座開催日時時点で1歳3ヶ月まで)と保護者
※保護者は両親のみとし、祖父母やごきょうだいの参加はご遠慮ください。

中学校、高校で助産師が実施する講座にボランティアとして参加し、お父さんの様子を見させていただいたり、子育てについてのインタビューを受けていただきます。

開催期間 2024年6月(予定)～2025年2月
※やむを得ない事情(感染症、悪天候)により講座を中止する場合があります。

開催場所 島根県全域の中学校、高校等
開催日時、開催地の詳細については、参加受付サイトに掲載の講座一覧をご確認ください。

参加申込の方法

「NPO法人おやこ劇場松江センター」サイトのボランティア募集ページからお申し込みください。
(あかちゃんボランティアの募集は島根県おやこ劇場松江センターへ委託し実施しています)
・お申し込みにあたっては、講座一覧から参加を希望する講座を選択し、参加申込を行ってください。
・講座については、開催日時・場所が決定次第、サイトへ順次掲載します。

松江 おやこ劇場 検索 <https://blog.canpan.info/oyakomatsue/>

QRコード

開催期間中参加者随時募集

留意事項

- ①ボランティア参加の申し込みはお一人につき年度内3回までです。
- ②講座参加1回につき、1000円(交通費などの必要経費として)を当日お支払いします。
- ③講座に参加し、知り得た情報(生徒、児童に関すること)は他に漏らさないようお願いいたします。
- ④講座に関する連絡のため、担当助産師等から電話等で連絡する場合がありますので、必ず応答願います。
- ⑤参加調整等に電話のほか、Gmailを使用するため「@gmail.com」を受信できるよう設定をお願いいたします。

お問い合わせ 講座の内容について 島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 TEL 0852-22-6475 〒690-8508 松江府東町1番地 講座参加受付サイトについて NPO法人おやこ劇場松江センター TEL 0852-22-4937 〒690-0874 松江市中環町7番地

3 . 生の楽習講座（乳幼児触れ合い体験）

[課題]

- ①保育所から大学に至る各ライフステージで、生命や性、健康に関する講座を受ける機会の提供はできているが、教育としての継続には至っていない
- ②指導要領に沿って授業を行うので、柔軟に性のことが伝えられない
- ③外部の講師を呼ぶ余裕がない学校に対してどう届けるか
- ④講座募集(3/下旬)～受付(5/月上旬)～参加校決定(5/下旬)
 - ・希望される施設数に対して実施数が少ない（助産師会のリソースの不足）
- ⑤講座内容
 - ・思春期生徒、LGBT等へ配慮した内容へ改善（県助産師会で毎年学習会を開催）
 - ⇒助産師が学校等と事前に綿密な打ち合わせを行い、生徒の背景や状態に合わせて講座内容を調整している
- ⑥あかちゃんボランティア管理
 - ・中山間・離島地域での応募が少ない（触れ合い体験ができない）
 - ・関係者間（あかちゃんボランティア、学校、担当助産師、県助産師会、NPO法人、県）での連絡調整が煩雑
 - ⇒関係者で話し合い、業務フローを作成しR6から運用

4 . ライフプラン設計講座

[目的] 妊娠や出産に関する医学的知識に加え、キャリア形成やワークライフバランス
などをテーマとした講座を実施し、10年後、20年後の自らの将来について考える機会を提供

[実施者] 外部講師を委託する個人

[対象] 講座を希望する県内の高等学校、専修学校および大学の生徒・学生

[実施方法] 外部の専門講師派遣による座学の実施、ワークショップの実施（座学後に実施）

[各機関の役割] 県子ども・子育て支援課は、講座の募集や採択の通知および場合によって高等学校向け
ワークショップを担当

[実績] 令和3年度 高校8校、大学1校、参加人数499人
令和4年度 高校5校、専門学校1校、大学1校、参加人数492人
令和5年度 高校3校、大学1校、参加人数384人

[予算] 事業全体で246千円（講師謝金と講座実施における経費）
・講師謝金は1時間あたり5,100円
・全額子ども・子育て支援課の予算

4 . ライフプラン設計講座

[内容] 専門講師による講義、ワークショップ など

[ねらい] ・結婚、家族を持つことの意義
・妊娠・出産・不妊治療に関する正しい知識
・近年の婚活・晩婚化・晩産化の状況
・家庭（子育て）と仕事の両立
・ライフプランの設計
・参加者同士のワークショップ（様々な考え方に触れる） など

[工夫] ・事業開始時に、有識者の協力を得て講座内容を決定し、開講以降は講座内容は変更せず、各講師が均一の内容を提供できるようにしている
・統一した内容の講座を提供するため、ライフプラン設計講座の講師は必ず事前にファシリテーター育成講座を受講している
・基本的な講座内容や所要時間は設定されているが、より多くの学校での講座実施を目指し、例えば高等学校であれば講座のみの1時間にする等、各校の要望に応じた講座を実施している

[各機関との連携のポイント]

- ・大学向け「ライフプラン設計講座」の終了後、関係者でミーティングを実施することにより、委託先との継続的な連携体制を構築している
- ・「ライフプラン設計講座」を実施・担当した学校教諭が異動した場合、異動先での実施を働きかけるなど、教諭との関係から学校との関係を構築している。

4. ライフプラン設計講座

[高校生の感想] (R5実施分)

- ・ 自分で選択しなければ何も手に入らないことが分かった。
受け身の姿勢ではなく、自ら動いて人生の選択をしていきたい。
- ・ 自分がどのように生きるか、どのように生きたいか、たくさん悩んで自分が決めた選択肢を頑張ろうと思った。
- ・ 今は結婚したくない、子どもはいらないと考えているけど、これから変わっていくかもしれないので、ライフプランを考え直したい。
- ・ まだ自分には関係のない先の未来だと思っていたけれど、他人事ではないことが分かった。
- ・ いつか出産すると思うので、出産・育児について知ることができて良かった。
- ・ 子どもが生まれたらどうするか家族で考えたいと思った。
- ・ 早く家庭を持ちたいという気持ちが高くなった。
- ・ グループワークをして、価値観はそれぞれ違うんだなと感じた。



4 . ライフプラン設計講座

[大学生の感想①] (R5実施分)

- 一番驚いたことは、思った以上に男性は仕事中心に考えているということ。家族内での役割の考え方の変革が重要。
- スウェーデンのような男性の育児休暇がとりやすい環境づくりが、少子化対策の解決に近づくと感じた。
- 母親は常に自分の時間を削って、育児のつらい部分をずっと担っていたのだと感じた。
- 仕事を中心としたライフプランを想像していることを明確に気づかされた。現代では仕事と子育ての両立が難しく、考えなければならないことが多いので、結婚には乗り気ではなくなった。
- 社会の流れが速く、自分一人で生きていくことで精一杯。そんな時代だからこそ、子どもを持つというリスクを抱えたくないのだと思う。
- 友達も子育ての自信がない、一人が圧倒的に過ごしやすく誰かと生活することが考えられないという人たちがほとんど。だからこそ、今の時代に結婚して子育てをする意義を広めていく必要がある。
- 結婚しますか？しませんか？子どもを持ちますか？持ちませんか？そうした選択を自分にとってのベストに近づけていくように考えていくべき。
- この10年で結婚への価値観が変わったが、社会制度などがついていっていない。



4 . ライフプラン設計講座

[大学生の感想②] (R5実施分)

- ・ 子どもはある程度経済的基盤がないと作らない方がいいとばかり思っていたが、その考え方が変わった。
- ・ 結婚、出産、育児にはお金と人手が必要で、それを安定させるのが最初の課題。
- ・ 現在の日本では、子育てに多大なお金が必要であることが少子化の要因。
- ・ 正社員とパートでは給料が全く違うと聞いて、やはり正社員を続けたいと思った。そのためにも、会社側も子育て支援を充実させてほしい。
- ・ 私の父は少し年齢が上で、父の年齢を聞かれるのが苦手だった。しかし、その分、たくさんの知恵や知識を持っていて、何でもこなすし、幼い頃からいろんなところに連れて行ってくれたり、困ったことがあるとサポートしてくれたり、今でもそれは変わらない。自分が親からたくさんの愛を与えて育ててもらった分、私もそんな親になりたいと思った。
- ・ 男性の生殖能力も徐々に減衰していくことを知り、結婚とライフプランにしっかりと向き合ってみようと思う。



4 . ライフプラン設計講座

[課題]

- ①保育所から大学に至る各ライフステージで、生命や性、健康に関する講座を受ける機会の提供はできているが、教育としての継続には至っていない。
- ②講座募集(3/下旬)～随時受付、参加校決定
 - ・普通科（進学校）は、カリキュラム編成上、講座を開催する時間を確保しにくい
⇒実業高校へのアプローチを実施。
- ③講座内容
 - ・最新のデータ・情報に基づく資料、LGBT等へ配慮した内容への改善
⇒R6は4名のファシリテーターが、白河桃子氏から指導を受け、資料を更新予定。

●こっころバースデー講座

<https://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/syoushika/parntenv/coccolo-birthday.html>



●生の楽習講座

<https://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/syoushika/parntenv/seinogakusyu.html>



●ライフプラン設計講座

<https://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/syoushika/parntenv/shimanelifeplan.html>



ご清聴ありがとうございました。